

コラム 2

鳥取県立博物館の家老日記

テキストデータベース公開の取り組み

大嶋 陽一

鳥取県立博物館は、鳥取市にある「国史跡鳥取城跡」内に所在する総合博物館である。当館最大の史料コレクションは、現在の鳥取県域に相当する因幡・伯耆2か国 32 万石の鳥取藩主池田家から県に寄贈された「鳥取藩政資料」約 1 万 5,000 点である。その特色は各部局(国元・江戸の家老や御用部屋(御用人)、農政担当の在方御用場、鳥取町奉行、江戸留守居ほか多数)で作成された約 4,100 点の日記が残存している点にある。とくに家老のもとで日々記録された「家老日記(控帳)」は、明暦元年(1655)から明治3年(1870)まで約 250 点、年次をおってほぼ残存し、藩政や領内の出来事を知る上で最も重要な史料である。

この「家老日記」は、平成 16 年から 10 年間の歳月をかけ、当館の古文書解読ボランティアの尽力により全文が解読された。現在でも全県で 40 名程度が活動するボランティアは、自宅での古文書解読・テキストのデータ化→添削→完成データの博物館への提出という流れで行われている。毎月一回、県内3か所で開催される月例会では、学芸員も参加してボランティア同士で古文書の読み合わせが行われるなど、参加者間の交流も行われている。

ボランティアを事業として継続するにあたって、博物館とボランティアを結ぶボランティアリーダーの役割を担っていただいている坂本敬司氏の存在が極めて大きい。坂本氏は、ボランティア立ち上げ時の当館の学芸員で、古文書解読に関して全くの素人である参加者の解読指導や添削などに多大なご協力をいただいている。

ボランティアによって解読された 3,000 万字に及ぶ家老日記のテキストデータをもとに、当館では平成 26 年以降「家老日記テキストデータベース」を整備し、ホームページ上で順次公開した。このデータベースは、キーワードによる全文検索が可能という画期的なものであった。「家老日記」には、桜田門外の変やペリー来航といった歴史的に有名な事件から、村々の些細な出来事や人名などミクロな内容も含んでおり、研究者のみならず、先祖調査や地域の歴史研究など一般の方にも多く利用されている。

家老日記テキストデータベースは、令和3年から鳥取県が運営するデジタルアーカイブ「とっとりデジタルコレクション」へと移行し、日記データベースとして公開を継続している。現在では「寺社方日記」も追加し、今後も解読済みの「学館奉行日記」など順次公開していく予定である。デジタルコレクションでは、家老日記の原本 PDF データのほか、藩政資料の原本 PDF を 1 万件以上公開し、利用に供している。

「家老日記」は、極めて良質な史料であるにも関わらず一部の研究者の利用しかなく、館

職員として忸怩たる思いがあった。しかし、ボランティアによる全文の解読、そしてデータベースの公開により、いつでも、だれでも、どこでも容易に利用できる環境をつくることができ、史料の利活用の裾野や幅を大きく広げた画期的な事業だと自負している。すべて無料で利用できるのも、ぜひ一度ご利用いただきたい。なお、本事業の詳細については来見田博基「古文書を活用したボランティア活動の成果と意義」(『博物館研究』650、2022年)があるので、ご興味のある方はそちらをごらんいただきたい。

(鳥取県立博物館主任学芸員)

とっとりデジタルコレクション「家老日記テキストデータベース」の利用方法

「とっとりデジタルコレクション」とは、鳥取県立公文書館、鳥取県埋蔵文化財センター、鳥取県立図書館、鳥取県立博物館の4館が所蔵するさまざまな資料をデジタル化し、インターネットで閲覧することができるシステムです。(HPより引用)



とっとりデジタルコレクション
<https://digital-collection.pref.tottori.lg.jp/>

利用方法

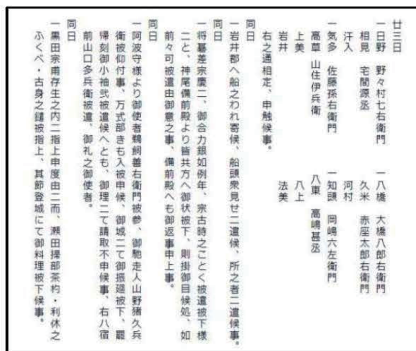
- ① とっとりデジタルコレクションのトップページから「所蔵館ごとに探す 鳥取県立博物館」を選択。
- ② 「分野で探す 人文 日記」を選択。
 ※原本 PDF を見る場合、「分野で探す 人文 歴史」を選択し、見たい史料名をキーワード検索。データが存在する場合は PDF マークが表示される。PDF はダウンロード無料。
- ③ 「詳細検索」では、フリーワード検索のほか詳細検索で「日記分類」「年」「内容」で検索可能。日記分類は「家老日記」がデフォルトとなっている。
- ④ キーワード検索すると「検索結果」が一覧形式で表示。検索キーワードがハイライト表示となる。一覧から見たいものを選択すると「資料詳細」へと移動し、解読テキストが表示される。



「とっとりデジタルコレクション」トップ画面
 ※赤色の囲みが「鳥取県立博物館」



詳細検索（キーワード検索）画面



資料詳細表示画面（部分）

【図】とっとりデジタルコレクション「家老日記テキストデータベース」の利用方法

表紙の解説

			1	2	3	4
	9			5	6	
				7	8	
	(裏)			(表)		

- 1 触留が多数展示されていた 2023 年「第 49 回愛知県公文書館企画展 新・収蔵資料展 ～古文書にみる尾張の町と三河の村～」の展示風景 山田洋一撮影
- 2 奈良町の町家をイメージした奈良市史料保存館の外観 山田洋一撮影
- 3 道標「古文書館通り」と川下りの船（船頭さんが「ここ（建物）は柳川の古文書館」と説明されていた） 山田洋一撮影
- 4 柳川古文書館の外観 山田洋一撮影
- 5 仙台伊達家領大肝入(大庄屋)吉田家文書の天保 13 年(1842)「定留」(御用留)の表紙(2011 年東日本大震災の大津波で被災、その後修復) 陸前高田市教育委員会提供 *別表 No.16、コラム 1 参照
- 6 地元の実業家が古物商から買い戻し大正 10 年(1921)に当時の小松町に寄贈された天保 13 年 7 ～ 12 月「小松藩会所日記」の表紙 西条市立図書館小松温芳図書館郷土資料室提供 *別表 No.106 参照
- 7 戦時中に大阪府立中之島図書館に保管を委託され、大阪大空襲から逃れた天保 13 年「御触書承知印形帳」（菊屋町文書）の表紙 山田洋一撮影 *別表 No.80 参照
- 8 維新期に散逸した加賀前田家治政資料の書写による収集事業で作成され、のちに寄贈された天保 12 ～ 14 年「郡方御触留帳」（金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵加越能文庫）の表紙 山田洋一撮影 *別表 No.56 参照
- 9 高田城跡（上越市）に再建された高田城三重櫓 山田洋一撮影

京都府立大学文化遺産叢書 第 37 集

公儀触等の伝達研究と触研究への情報提供あり方研究

編集 山田洋一・東 昇

発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒 606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2025 年（令和 7）6 月 30 日

印刷 株式会社 北斗プリント社
